

熊楠ワークス

南方熊楠生誕130年を記念

田辺市で第1回ゼミナール

全国各地から250人が参加



熱心な議論が行われた第1回南方熊楠ゼミ（8月23日、田辺市の紀南文化会館）

南方熊楠翁の生誕百三十年を記念した第一回南方熊楠ゼミナール（文化庁、南方熊楠記念館、南方熊楠邸保存顕彰会主催）が八月二十三、二十四の両日、和歌山県田辺市の紀南文化会館小ホールで開かれました。パネルディスカッションの席上、コーディネーターを務めた上山春平氏（京都市

立芸術大学長、南方熊楠記念館名誉館長）は、「このゼミナールを南方学会の発足につなげたい」と、新学会の設立を呼び掛けました。同ゼミナールには和歌山県内をはじめ、大阪府や兵庫県、東京都、神奈川県など全国各地から約二百五十人が参加、熊楠をめぐる話題や研究に耳を傾けました。

パネルディスカッションでは、上山氏をコーディネーターに、飯倉照平・東京都立大学名誉教授、小野新平・日本私学教育研究所専任研究員、松居竜五・駿河台大学助教授の三氏が、民俗学や生物学の立場から熊楠について語りました。小野氏は、スライドを使いながら、熊楠がライフワークにしている

楠がライフワークにしている粘菌の生態を分かりやすく説明。平凡社版「南方熊楠全集」の校訂に携わった飯倉氏は、現在行われている南方邸の蔵書整理などの基礎調査により、南方研究が一層進むことを期待。松居氏は、日本の考古学発展に大きな役割を果たした米国の生物学者モースの来日

が、熊楠が渡米を決意するきっかけになったのではないかと述べました。上山氏は、南方邸や記念館で保存されている資料の整理が終わった段階で、一般の研究者が活用できるように公開する意向を示すとともに、「南方学会を設立し、第三回の南方全集を発売したい。今回のゼミを学会設立の口火にしたい」と抱負を述べました。

午後からは、中瀬喜陽氏（顕彰会常任理事）、久原脩司氏（記念館評議員）の案内で、南方邸や高山寺、南方熊楠記念館を見学しました。また、二十三日夜には懇親会もあり、講師と参加者が交流しました。

顕彰会では、平成十一年四月から九月まで開かれる予定のジャパンエキスポ「南紀熊野体験博」に合わせ、第二回ゼミを開催することを検討しています。

発行所
南方熊楠邸保存顕彰会
和歌山県田辺市新屋敷町1
田辺市教育委員会文化振興課内
TEL0739(22)5300(代表)

CONTENTS

- 2・7面 南方ゼミ・パネルディスカッション
- 6面 南方ゼミ現地見学
- 7面 普段着の南方熊楠⑤

- 8面 神島を探る⑤ 後藤伸氏
 - 9面 熊楠ゆかりの地④ 中瀬喜陽氏
- おわび
本号で掲載を予定していましたカーメン・ブラッカー先生の南方賞受賞記念講演は、編集部都合で次号に掲載いたします。